

創立143周年



学校だより

は え

南風の子

中種子町立
南界小学校

平成28年10月7日(金)発行

雨にも負けず合同運動会 子どもの姿 地域の姿

校長 岡留 祐宏

9月25日の合同大運動会は晴天下の大会になると思っていたが、突然の雨に見舞われる大会となりました。特に、最後の2種目を前に降り始めた雨でグラウンドは水浸しになりましたが、保護者・地域の方々、中高生の皆さんの機動力あふれる復旧作業により、全プログラムを怪我もなく終了することができました。

子どもたちの競技や演技、応援や係の仕事に取り組む姿、突然の強雨にもたじろがない地域の方々の姿は、大会スローガンに掲げた「感動・笑顔、そして勇気」の姿でもあったと思いました。走路に広がる白砂が地域の皆様の思いを物語っています。御来賓、保護者、地域の皆様、中学生の皆さん、本当にありがとうございました。



やり遂げて、万歳三唱！

まだまだ続く学校行事、校区・町行事で磨きたいこと

運動会終了後は、町民体育祭(10/9)、小学校陸上記録会(10/13)の練習に取り組んでいます。また、南界校区相撲大会(10/16)後は、中種子町相撲大会(10/30)に向けた練習も予定しています。さらに、11月に予定している学習発表会(11/12)、町音楽祭(11/9)、町駅伝競走大会(11/20)の練習も、10月から並行して進めていくこととなります。いろいろな行事を通して、一層、自分の身体を鍛えること、我慢強く取り組む心を鍛えること、感謝の心を磨くこと、まさに自分が伸びるときという前向きな気持ちで取り組んでほしいと思います。

そのためにも、日々の生活リズムを崩さず、授業でも家庭学でも、やるべきことをきちんとやるというたくましさ磨くいい機会にしてほしいと思います。限られた時間を効果的に使う。夏休中の生活の反省を生かす時でもあります。

あらためて「伝記」～読書月間～

土曜ドラマ「夏目漱石の妻」を観ました。「我が輩は猫である」や「坊ちゃん」などの作品は多くの人に読まれてきたと思いますが、「夏目漱石」自身のことを知らないと思い、「夏目漱石」の伝記を読みました。

英文学を学び、2年間、ロンドンに留学し、大学で教師をしていても、「自分が本当になすべきは何か」を迷い続けていたこと、文明開花の日本にあって「文明とは何か」を突き詰めようともがいていたこと、幸福とは言いがたい幼少時代にも起因するの、心の底に潜む「孤独や不安」など、生き方を深く追求する苦しみの中にいた文豪と、その側にあった「漱石の妻」の姿を知りました。



今年も大隅義典教授の受賞で話題となったノーベル賞。この賞の創設者アルフレッド・ノーベルはどんな考えをもっていたのかと思い、子どもたちにも伝記を紹介しました。

校舎の屋根から見える風景

台風が接近する度に、テレビやパソコンで“今後の進路”を確かめるのですが、いつからか、職員室のテレビの受信状況が悪く、どの放送局も映らなくなっていました。屋根のアンテナを見ると、近所の家々のアンテナとは全く違う方角を向いていました。

「子どもの頃、校舎の屋根に上って、校長先生からもの凄く怒られたことがあった」というある保護者の話が頭をよぎりましたが、「アンテナの向きさえ変えれば・・・。」と思い、高い所は好きではありませんが、何とか目的を果たすことができました。

屋根からは熊野や浜田の海岸、ロケット基地の組み立て棟や発射台もよく見えていました。「昔はもっと見晴らしが良かった」という地域の方の話を実感した次第です。

